

## 追悼

### 井上孝先生を悼む

東京大学名誉教授

(財)日本開発構想研究所理事長 新谷洋二

平成13年2月21日(水)午前7時30分、井上孝先生は胃部動脈瘤破裂により83才で急逝された。この日は奇しくも先生が戦後東京都に就職された日であり、またお祖母さまのご命日でもあった。後でどうと、前日夕方までIBSで元気に仕事をされ、翌日ロータリークラブに出席するための用意がされてあったという。まだまだお元気で活躍されると思っていたので、残念でならない。

先生との出会いは、昭和30年私が大学院を修了して北海道開発局に赴任する直前、学生時代お世話になった首都建設委員会事務局の方々に挨拶に行った時のことだった。「イギリス留学から帰国されたばかりの優秀な都市計画家だよ」といって初めて紹介された。私の北海道行きを知ると、ご自身も戦時中、海軍技術将校として北海道・千島におられた頃の話をして、大学卒業後、ウエルの設計をしたとき、心配で鉄筋を太く密に配置したお陰でコンクリートの砂利が入らなくなったという失敗談を面白おかしく語って、未知の土地での初仕事に向かう後輩の気持ちを楽にさせようと気遣って下さった心持を今でも忘れられない。

昭和32年、建設省計画局都市計画課に転勤したとき、先生は隣の区画整理課長補佐だったが、34年から都市計画課土木専門官として、私の直接の上司になられ、以後私が区画整理課に移るまでの8カ月間、一緒に仕事をした。その後、私が都市計画課に戻ると、先生は首都公団計画課長から区画整理課長を歴任されたので、仕事の上では常に関係があり、この間色々なことを教えて戴いた。

昭和39年、東京大学教授として、創設されたばかりの都市工学科に移られ、東大における初の土木系都市計画講座で、翌年移った私とともに、研究と教育に力を注がれた。先生は実際の都市計画の大家で、区画整理の発展を願っておられたが、終生、学徒としての気持ちを失わずにおられた。



### 故 井上 孝 氏

本会の名誉会員 井上 孝 氏には平成12年2月21日永眠されました。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

アメリカのニュージャージー州生まれなのに、青年時代に留学されたイギリスをこよなく愛され、イギリスで教えを受けたホルフォード教授、大ロンドン計画を作ったアーバー・クロンビー教授のことを終生尊敬されて、プラクティカル・アイディアリストたることを常にめざしておられた。一方では、総合的判断の訓練のために、オーソドックスな筋道で考えるだけでなく、逆説的な反論を問いかけて、我々を鍛えられることもあった。

昭和50年度日本都市計画学会会長として活躍され、土木出身で初めて都市計画中央審議会会長となり、東洋人として初めてIFHP会長となられ、東京大学名誉教授として、終生現役の実際の都市計画家として国内各地の計画に蒞蓄を傾けられたのみならず、国外でもウイットに富んだ英語を駆使して活躍されたことは、偉大な業績であった。東大時代に「21世紀を見たい。世界の島に全て行ってみたい」と常に言っておられたが、目的は常人から見ればかなり達成されたと思う。先生は年間を通じて、海外、国内、東京に大体1/3ずつ滞

在するというペースで、海外から帰られる度に部屋の壁上の世界白地図に足跡の赤印が次第に増えていった。建設省時代から、風呂敷包みを抱え、巨体を揺すって忙しく動き回られる廊下トンビの姿を忘れることができない程、活動的であった。

先生は矢内原忠雄先生ご指導の無教会派クリスチャンであった。今頃は天国の都市計画研究に活躍されている姿を思い浮かべつつ、遥かなる先生に心から感謝し、ここにご冥福をお祈りする。

## 井上孝先生の御経歴と御業績

東京大学大学院教授 太田勝敏

本学会名誉会員井上孝先生が、平成13年2月21日に急逝されました。享年83歳でした。

先生は、大正6年7月米国ニュージャージー州に生まれ、その後日本で小中学校の教育を受けられ、第一高等学校を経て、太平洋戦争さなかの昭和17年9月に東京帝国大学工学部土木工学科を卒業されました。卒業と同時に海軍技術士官として、北海道、樺太、千島列島地域の海軍基地防備計画に参画されました。

戦後、土木技術者として次第に計画分野に関連されるようになり、東京都建設局都市計画課、総理府首都建設委員会事務局、建設省計画局首都建設室等において首都の広域計画に関与し、この間昭和28年から30年まで英国に留学され、ロンドン大学でサー・ウィリアム・ホルフォード教授の指導を受けられました。この時英国をはじめ欧米諸国の数多くのニュータウン、都市再開発の最新の実例に接して大変感激され、触発されたことが、先生のその後の国内、国外の活動の原点であったように伺っています。

その後、先生は建設省都市局の土木技術者として、都市計画、区画整理、都市高速道路計画等の全国各地の都市計画関連分野の第一線で計画実務を数多く担当されました。特に、昭和36年から37年まで首都高速道路公団技術部計画課長、昭和37年より39年まで建設省都市局区画整理課長の要職にあって、オリンピックを控えた首都高速道路網

の計画、土地区画整理事業の拡充（特に、補助率を1/2から2/3にup）に腐心されました。

昭和39年9月に先生は昭和36年に新設された東京大学工学部都市工学科に赴任され、昭和40年4月に設置された都市交通計画分野を主に担当する都市計画第五講座の初代教授に就任され、それ以来激動の大学紛争期を経て昭和53年3月の停年退官までの14年間同講座を担当されました。良い都市計画の背後には良いプランがあり、よいプランナーが居ると語っていた先生は、そこでわが国の都市計画プランナーの育成に尽力されました。

東大退官後、先生は横浜国立大学に移られ同大学土木工学科の設立に携わった後、昭和58年3月に同大学を退官されました。その後、昭和59年8月から平成10年6月までは都市交通計画分野における主導的シンクタンクのひとつである財団法人計量計画研究所理事長を勤められました。

この間、学術面では昭和48、49年日本都市計画学会副会長、昭和50年同会長、また実務面では都市計画中央審議会会長等の要職を歴任され、大学・理論と実務との橋渡しに努められました。

先生のもうひとつの大きな御業績は国際分野にあり、海外技術協力事業団のマニラ首都圏都市交通計画調査をはじめ、ペナン、テヘラン、アスンシオン等の途上国諸都市の交通計画にも積極的に関与され、わが国の国際技術協力を活躍されました。さらに、ヨーロッパを中心に活動する国際住宅都市計画連合IFHPに日本の代表として参画し、昭和49年から2年間、初のアジア出身の会長として主導的役割を果たされました。

これらの建設省、大学、コンサルタントといったそれぞれの立場からの多方面にわたる先生の御活躍は、日頃私共に語っていた都市計画における理論と実務との連携の重要性、practical idealist（現実的理想主義者）をひとつのプランナーの理想像としていた先生の姿勢を示すものでした。矢内原忠雄先生の無教会派のキリスト者として、また世界の古典文芸に精通した教養人として、広い歴史的視野からプランナーの役割、都市計画の方向を示唆していただいたように思います。

ここに、これまで私共を御薫育いただきましたことに感謝しつつ、心より先生の御冥福をお祈り致します。